

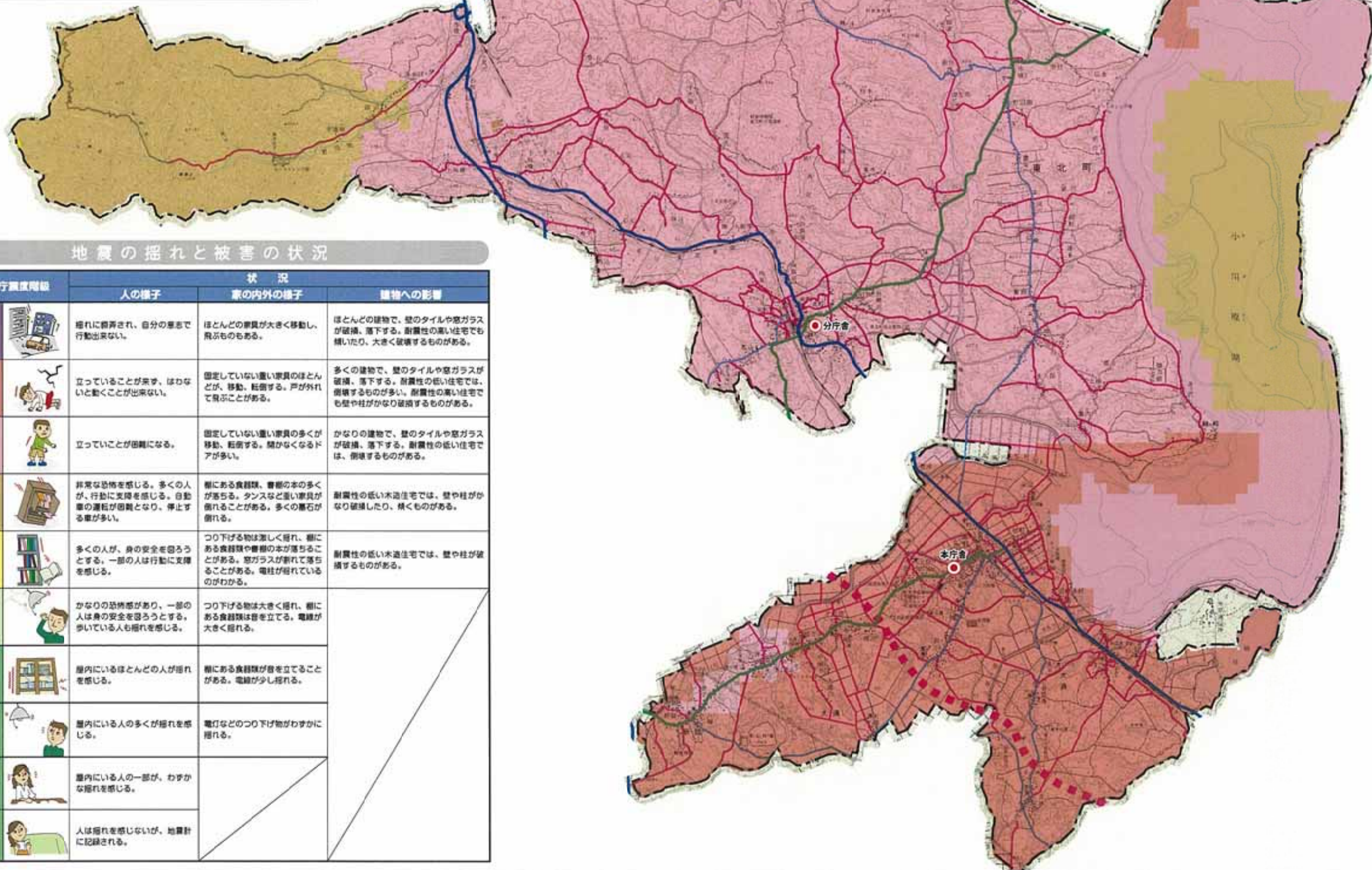
東北町 地震ハザードマップ

～揺れやすさマップ編～

揺れやすさマップについて

東北町では、今後発生する可能性のある地震について、町民の皆様の日頃からの備えに役立てていただくために、「地震ハザードマップ」を作成しました。この揺れやすさマップは、青森県が実施した「青森県地震・津波被害想定調査」の結果を基に作成しています。表示されている想定震度は、青森県内全域にわたって被害が想定される3地震についての震度予測結果を重ね合わせ、最大となる震度（太平洋側海溝型地震時の最大マグニチュード9の場合）を採用した結果を表示したものです。震度予測は250mメッシュごとに行っており、震度別に色分けをして表示しています。ご自宅の周辺および、通勤・通学路等について、想定される揺れの大きさを確認し、災害準備の情報として役立てましょう。

東北町



凡 例	
---	行政界
●	東北町役場

緊急輸送道路		
青森県指定路線		
—	第1次緊急輸送道路	国道及び県道
—	第2次緊急輸送道路	国道及び県道
東北町指定路線		
—	県道	
—	緊急輸送(避難)路	

※第1次緊急輸送道路は、県庁舎、生活圏中心城市の市役所、空港、港湾、生活圏中心城市の鉄道駅前広場、広域物流拠点(大規模市場)といった第1次防災拠点間を連絡する道路として設定されています。
 ※第2次緊急輸送道路は、各市町村の庁舎などの第2次防災拠点間を連絡する道路として設定されています。
 ※町指定の緊急輸送道路は、地区間を繋ぐ道路とそれに接続する地区内の道路として設定されています。

地震の揺れと被害の状況

計測震度	気象庁震度階級	状 況		
		人の様子	家の内外の様子	建物への影響
7	7	揺れに倒れられ、自分の意志で行動出来ない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損するものがある。
6.5	6強	立っていることが出来ず、はなはたと動くことが出来ない。	固定していない重い家具のほとんどが、移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものが多い。耐震性の高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。
6.0	6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。
5.5	5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。自動車道の運転が困難となり、停止する車が多い。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。タンスなど重い家具が倒れることがある。多くの黒石が倒れる。	耐震性の低い木造住宅では、壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。
5.0	5弱	多くの人が、身の安全を回らうとする。一部の人は行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類や書棚の本が落ちることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れているのわかる。	耐震性の低い木造住宅では、壁や柱が破損するものがある。
4.5	4	かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を回らうとする。歩いている人も揺れを感じる。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。電線が大きく揺れる。	
3.5	3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じる。	棚にある食器類が音を立てることがある。電線が少し揺れる。	
2.5	2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。	電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる。	
1.5	1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。		
0.5	0	人は揺れを感じないが、地震計に記録される。		

想定した地震



太平洋側海溝型地震

1968年十勝沖地震及び2011年東北地方太平洋沖地震の震源域を考慮し、青森県に最も大きな地震・津波の被害をもたらす震源モデルを設定しました。

日本海側海溝型地震

1983年日本海中部地震の震源モデル(Sato,1985)、及びその最大余震の震源モデル(阿部,1987)を考慮して震源モデルを設定しました。

内陸直下型地震

「青森海西岸断層帯の活動性及び活動履歴調査(産業総合研究所(2009))」により内断層帯に海底活断層が推定されたことから、震源モデルを設定しました。

●想定震度の重ね合わせ

このマップにおける想定震度は、上記3地震の震度予測結果を重ね合わせ、最大となる震度を採用した結果を表示したものです。

縮尺 1:50,000



東北町 地震ハザードマップ

～危険度マップ編～

危険度マップについて

東北町では、今後発生する可能性のある地震について、町民の皆様の日頃からの備えに役立てていただくために、「地震ハザードマップ」を作成しました。この危険度マップは、地震の揺れによって発生する建物被害の分布を、相対的に表したものです。

具体的には「揺れやすさマップ」で示した強さ（太平洋側海溝型地震時の最大マグニチュード9の場合）の揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表現しています。この危険度は250mメッシュ単位で分割した地域に達している建物の中で「全壊」する建物の割合により設定しています。危険度の数値が大きくなるほど地域の建物を受けける被害が大きくなるのが想定されます。

ご自宅の周辺および、よく行く場所等の危険度がどのくらいなのかを確認し、建物の安全性について考えてみましょう。

東北町



危険度の区分		
危険度	建物全壊率	
高	7	15%～
	6	10%～15%
	5	8%～10%
	4	5%～8%
	3	2%～5%
	2	～2%
低	1	0

※危険度マップは、建物が「全壊」する確率を危険度区分で、色分けして表示したものです。建物全壊率が0%の区域は着色していませんが、建物の危険が全く無いという意味ではありません。着色されていない区域の建物も、「一部損傷」や「半壊」となる可能性が十分にありま

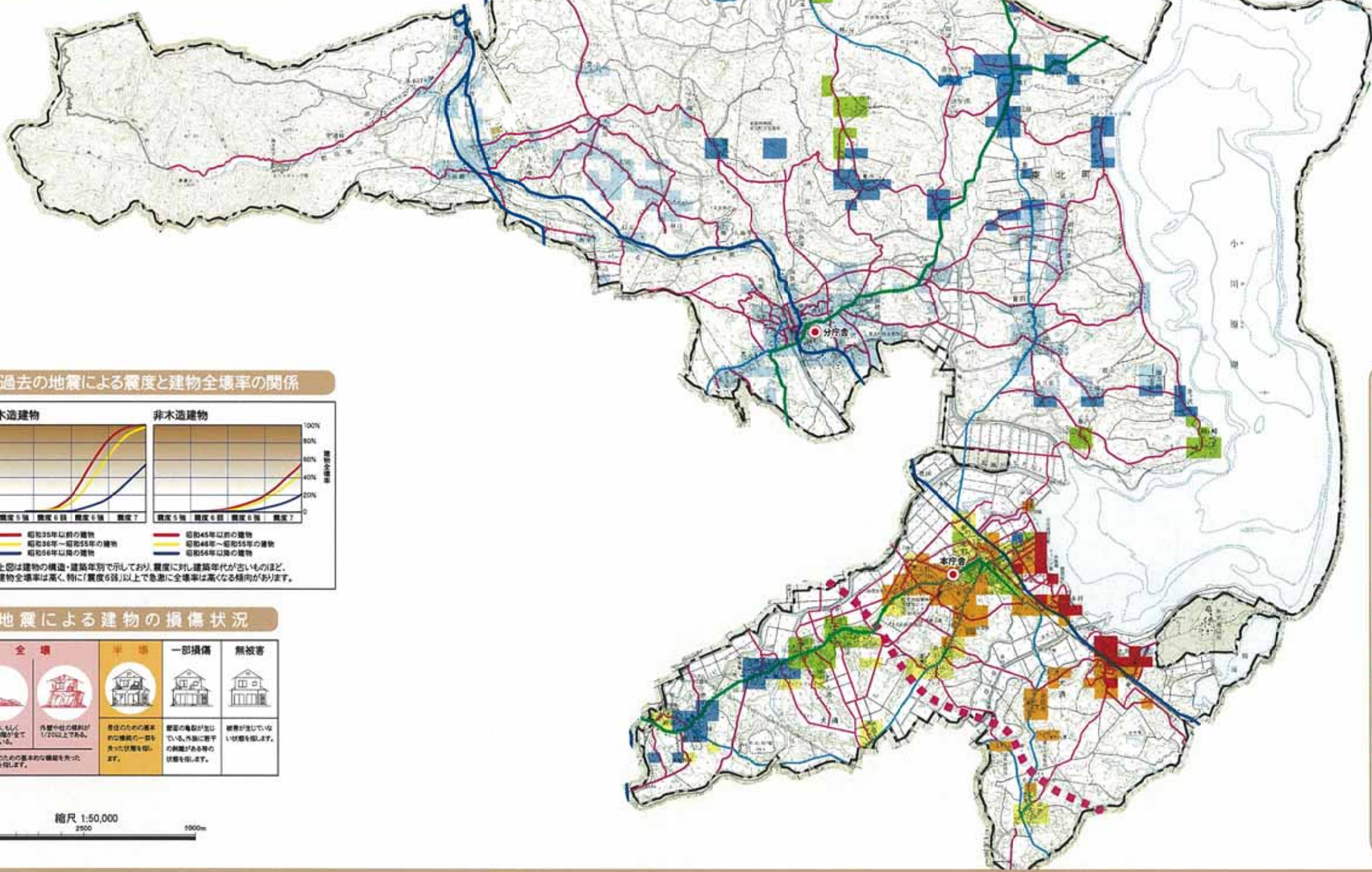
凡 例	
-----	行政界
●	東北町役場

緊急輸送道路	
青森県指定路線	
第1次緊急輸送道路	国道及び県道
第2次緊急輸送道路	国道及び県道
東北町指定路線	
県道	
緊急輸送(避難)路	

※第1次緊急輸送道路は、県庁舎、生活圏中心都市の市役所、空港、港湾、生活圏中心都市の鉄道駅前広場、広域物流拠点(大規模市場)といった第1次防災拠点間を連絡する道路として設定されています。

※第2次緊急輸送道路は、各市町村の庁舎などの第2次防災拠点間を連絡する道路として設定されています。

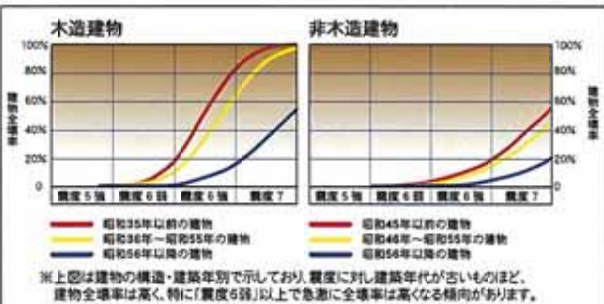
※町指定の緊急輸送道路は、地区間を繋ぐ道路とそれに接続する地区内の道路として設定されています。



わが家の耐震チェック

- 建てたのはいつ頃ですか?
昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた家は耐震性が低いとされています。
 - 建物はどうな形ですか?
2階が隅より傾き出ている、屋根で建物が高くなっている、壁の少ない家や開口部の大きい家は、地震時に倒壊の危険性が高いです。
 - 壁の配置はバランスがとれていますか?
壁の少ない家や開口部の大きい家は、地震時に倒壊の危険性が高いです。
 - どのような基礎ですか?
玉石基礎では、玉石に柱を立上ただけで固定されていません。
 - 腐んだところはありませんか?
腐っていたり、シロアリ被害が発生していませんか。
- 【住宅の耐震診断について】
一般に、地震が発生した場合に建築物が倒壊する割合は、古い建築物ほど高くなりますが、特に古い傾向を示すのが(古い)木造住宅です。古い耐震基準が適用されていた時期(昭和56年5月以前)に建てられた家や、壁が少ない建物の家は耐震性が低くなっていますので、心当たりのある方は専門家による耐震診断を受けられることをお勧めしています。

過去の地震による震度と建物全壊率の関係



地震による建物の損傷状況

全壊	半壊	一部損傷	無被害
自宅など、もしくは一部の部分が完全に倒壊している。	外壁や柱の傾斜が1/20以上である。	居住の妨げとなる程度の損傷が生じている。外壁に若干の剥離がある等の状態を指します。	被害が生じていない状態を指します。

地震から身を守る心得10ヶ条

- 1 まず落ちついて身の安全をとりましょう
- 2 すばやく火の始末をあわてず、さわがず冷静に!
- 3 戸を開けて出口を確認しましょう
- 4 火が出たらまず消火!
- 5 外へ逃げるときはあわてないで!
- 6 狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近づかないようにしましょう
- 7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意しましょう
- 8 避難は徒歩で、荷物は最小限に!
- 9 みんなで協力して「応急処置」を!
- 10 正しい情報をつかみ、余震に注意しましょう

縮尺 1:50,000

